

常盤塾 議事録

日時：2012年3月17日（土）10:00~13:20

場所：丸ビル 10F 一橋大学大学院商学研究科 丸の内産学連携センター10階 1004区

出席者：常盤先生、片平先生、古川先生

安梅先生、浅井、臼井、大下、古城、竹中、平山、丸山、松永、松山、松崎（敬称略）

（書記）松崎

1. 常盤先生のお話

・日本のモノづくりの低迷

今改めてモノづくりを考え直そうという気運がある

モノづくりは経済力を超えた社会力を持たねばならない

中韓企業に押されて、大手エレクトロニクス3社計1兆2000~3000億円の最終赤字を計上

反面、米国はGM・フォード・クライスラーが復活、少し前“トヨタはすごい”といわれ驕りがあった

謙虚な気持ちが薄れたことが要因ではないか

また貿易収支、経常収支も赤字、しかし日本は輸出産業なしでは生きていけないのだ

“いまや、モノづくりでなくサービス産業だ”とサービス産業が先導するよなことが叫ばれるが、

そんなことは現実的でない

輸出の半分を占める自動車産業以外の輸出産業とは何かを考えていかないといけない

・アメリカの危機感

アメリカでは、従来はドル高容認政策 現在、モノづくりが大事、モノを買おうという意見に変化

オバマ大統領の所信演説 モノづくり復活を宣言、優遇策で国内に製造が戻ってきた

彼らはケミカルなどいくつかの競争力の強い分野が、すごい力（ポテンシャル）を持っている

“インソーシング” 従来外からモノを買ってきたものを、アメリカでつくって、アメリカで買おう、

すでに、モノづくりに回帰しているが、日本ではこのことが、国民的総意になっていない

モノを外でつくるという方針を出す企業が多いが、外でつくるということは、お金は外へ出て行く

企業は目先の利益を上げるために、本当に大事な雇用機会を失うという問題を無視
国家がつぶれるかどうかという議論が必要

・現状打破し、挑戦しよう

従来のビジネスモデルは“安さ”を追求している、まずこれを変えないといけない
中国企業レノボは、IBMのPC部門を買収、コンピュータは古い産業といていたが、見事に

立て直して成功

ダメだと思っているなら、諦めずに挑戦する気持ちが必要だ

エルピーダなど半導体企業も、元気のいい会社にやられているだけ

何事もやり方次第、現状を謙虚にとらえることが重要だ

物事に限界をつくってはダメ、新しい仕事は限界線のその先にある

自ら限界線をひいていないか

日本は高度成長を経験、その後、無難に生きようという雰囲気は充滿

現状を打破し、挑戦しよう！

医療機器はいいぞ！となると、あらゆる業界から群がってくる

クリステンセンのいう“イノベーションのジレンマ”がおき、次々と新しいところ
がのしてくる

掘場製作所のようにモノを売るよりも、モノの上にサービスを付加して売るという

モノを中心としたトータル・ソリューションを提供する企業が求められる

コスト・生産性・効率という概念だけでは、夢がない 何も創造していない

人には得手不得手があり、すべて自前でやるという必要はない

“日本人＝モノづくり”

自分の石の下をひっくり返してみよう 何か気づくはず

子供や孫は語彙が少ないが、モノを見る目は新鮮だ

下記のような親子のやり取りから、感性を大事だということ学ぶ

例1. 親：桜のつぼみ→子：桜のたまご

例2. 親：時間はない→子：時間はどこにあるの

これまでのモノづくりを振り返ってみると、複雑、メタボになってきている

反面、本質を追求したものになっていない

・選択肢を減らせ！

コロンビア大学のアイエンガー教授の実験で、選択肢を増やすと複雑になり、お客
さまの満足度は却って低下するという論文がある

お客さまには、せいぜい3つの中から選ばせることが最も満足感が高いのだそうだ
逆境、苦境、危機からの克服

今の仕組みでは新しい世界はない

新しい仕組みを考えようという“シグナル”をとらえ、新しいパラダイムをつくり

なさい

今こそ絶好のチャンス 前向きにとらえることが重要

そうすれば大きく変っていくはず 気がつく人はすでに気がついている

“モノづくり再考・再興” でがんばろう！

上海GM元気 日本は日産以外はダメ 中国人の価値観に合ったものを提供できてない

<意見>

- ・ 日経 BP オンライン “平成のシューカツ” 記事 ~わが子を就職難民にしないために~なんて
一流メディアも変だ
- ・ 日本では学生もサラリーマンもかっこよさが固定、働き方も“簡単で・手堅く・品よい” 仕事へ
ベトナムやタイでは、かつて日本がやってきたことは、新興国が担う 仕事がない

いわけでない

国内で希望がマッチングしない場合が出てきただけ

- ・ 限られたパイの中ではなく、枠を増やす議論が必要 議論の視点を変えよう
- ・ 現実面で会社に入ろうとすると、こういうトレーニングがあるのもやむを得ない
- ・ レーヨンとつく会社が元気 皆レーヨンと違うことをやっている 一度だめになったら本気で考える
- ・ トータル・ソリューション 全て自前は無理だとすれば 新たな取り組みが不可欠
- ・ JAL 稲盛会長の話 “俺たちはつぶれない” というムードが漂うと怖いといっていた
- ・ お金が INDEX となり、モノづくりの火種がなくなってきつつある
- ・ ブランドジャパン 2012 のベスト 20 にモノづくりではパナソニック 8 位、SONY 20 位
またアジア調査では中国、インドネシアそれぞれ国により企業、モノの位置づけが異なる
- ・ ほんとうに必要とされているものは何か、本質を見極めることだ

2. 課題発表

丸山さん 理性の限界 「第2章. 科学の限界」

2-0. 要旨

2-1. 科学とは何か

2-2. ハイゼンベルグの不確定性定理

2-3. EPRパラドックス

2-4. 科学認識の可能性と限界

詳細は、配布資料参照（資料が素晴らしいので、そちらをご確認ください）

<ビデオによる補足部分>

- ・ ティコ・ブラーエの天体観測、中国道教の宇宙論 ～天動説と地動説～（2-1）
- ・ エーテルの存在 ～光速度不変の原理～（2-2）
- ・ アインシュタインの重力方程式、時間と空間は相対的なもの ～相対性理論～（2-2）
- ・ “だるまさんが転んだ”における観測の限界 ～ミクロの世界の不確定性～（2-2）
- ・ ボーアの紋章 ～実在的解釈と相補的解釈～（2-2）
- ・ アブラハム・パイス “だるまさんが転んだ”の鬼＝原子核と電子 観測をしないとき電子は波 波のように同時に存在、観測されて始めて認識（量子論）～実在の意味～（2-3）
- ・ アインシュタインの光量子モデル ～EPRパラドックス～（2-3）

3. その他

- ・ 配布 日経ビジネス 3月19日号記事 ～BCG御立氏と常盤さんの対談記事～
- ・ 日程 4月14日（土）
6月2日（土） 6月30日（土） どちらかで福田金属箔粉追加講義
7月21日（土）
以上、通常開催 10:00～
8月18日（土） 15:00～ 懇親会付き
安梅先生ご紹介のNPO法人おもちゃ美術館 への見学 を別途調整
- ・ 次回 4月14日（土）の課題
丸山さん課題発表（第2章、2-4. 科学認識の可能性と限界）
大下さん課題発表（第3章）